



マグリット展 (国立新美術館)

2015年3月25日～6月29日

4/19記

René François Ghislain Magritte (ルネ・フランソワ・ギスラン・マグリット (1898.11.21～1967.8.15)) は、ベルギー、レシーヌ生まれ。18歳でブリュッセルの美術学校へ入学。1927～1930パリ滞在、以後ブリュッセルを拠点に活躍したシュル・レアリスト。

25歳頃デ・キリコに出会い、人体表現を画面に取り入れる。27歳頃にフランスのシュル・レアリズムの影響を受ける。画ではダリ、ルノワール、文学ではボードレール、スチーブンソン、ルイス・キャロルに触発され、音楽ではサティ、スーリを好む。

事物は断絶も境界もなく次第に何者かに変化していく。人は、見えているもの全てを捕えているわけではない。目に見えているものが外の見えるものを隠す。従って目は普段と違った思考を持たなければならない。石は思考しないが、家具には人間の思考の断片がある。イメージと事物を切り放し、最も日常的なものに悲鳴を上げさせ、存在自体を問う。



昼の空と夜の風景

異質でありながら似ているもの。二つの世界を生きることは過去と現在を生きること。

山高帽の紳士たち。同じ姿をした集団の中では、個性は見分けがつかない。